令和７年度　野田市立こだま学園指定管理者管理運営状況調書

担当課　保健センター

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価	担当課評価	特記事項
施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること	サービス向上のための取組状況	B	B	
管理経費の縮減が図られるものであること	①指定管理に係る経費の収支見込について	B	B	
	②経費縮減のための取組	B	B	
地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際して、地元業者へ配慮すること	地元住民の雇用及び地元業者への配慮	B	B	
事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	人員配置について	B	B	

総合所見

令和８年１月８日に子どもの発達相談室長及び担当者２名が施設を訪問し、指定管理者と打合せを行った。

サービス向上のための取組状況については、年に１回保護者アンケートを実施し意見・要望を伺い改善すべき点を踏まえ、改善内容及び目標を市に提示し情報共有している。また、川崎医療福祉大学から自閉症支援のコンサルテーションを受け、支援方法及び環境設定を学び、園児一人一人への関わり方等の技術向上に努めている。

保護者とは、主に連絡帳を通してコミュニケーションを取り、家庭でのニーズを把握している。家庭で起きている問題に対しては、家庭で取り組める対応策を考え、まずこだま学園で実施し成功してから家庭でも実施してもらい、問題解決できるよう努めている。

定期的にケース検討及び職員会議を行い、園児一人一人の様子や課題、実施している療育の内容を職員全員で把握するようにしている。

指定管理に係る経費の収支見込については、令和６年度の人員配置は、年度途中の退職があり計画以下になっていたが、今年度は満たされているため、業務の効率化や療育の質の向上に取り組むことができている。

経費縮減のための取組については、常にコスト削減の意識を職員間で共有し、空調設備の適切な温度設定及び使用しないパソコンやコピー機などの機器のオンオフの徹底に努めている。また、安易な委託は行わず数者から見積書を徴して業者を決めている。

地元住民の雇用及び地元業者への配慮については、職員 22 名中 16 名が野田市在

住者となっており、市内在住の方を優先して雇用するよう努めている。また、物品購入、建物に係る修繕、補修、点検等については、地元業者へ発注している。
　事業計画に沿った管理を行う能力を有していると認められ、総合的に見て適正に管理運営がされていると評価する。